小学生(低)礼拝2月①

真の父母様生涯路程③「試練に打ち勝ったお父様」

きょうのお話は「試練に打ち勝ったお父様」です。

真のお父様は、神の国をつくるために、伝道を始められました。伝道とは神様の愛とみ言を伝えることです。

ある日「38度線を越えて行きなさい！ 北の方にいる神様に仕える人々をとりもどしなさい！」と、神様の啓示がありました。真のお父様は、神様の声に従って北に向かいました。

神様が示された場所で、伝道をしていた真のお父様は、「神様はいない」と考えている共産党の人たちに捕まってしまいました。

共産党の人たちは、真のお父様に、「神様のみ言を伝えることをやめろ！」と言いながら、殴ったり、蹴ったりしました。真のお父様は、たくさんの血を吐かれて本当に死んでしまうかと思うほどでした。

そのような中でも、真のお父様は、「天のお父様、心配なさらないでください。私はまだ死にません。こんなふうにみすぼらしく死んだりしません」と、祈られました。

また、ある時は、「興南」という収容所に送られたこともありました。

そこでは、朝から晩まで、とても、つらい仕事をさせられました。「硫酸アンモニウム」という肥料の原料を袋に詰めて運ぶ仕事をしました。硫酸アンモニウムは、皮膚につくと痛みやかゆみがおこります。その袋を、たくさんたくさん運ばなければなりません。体中はとても痛くなりました。

それだけ、大変な仕事をしても、ご飯は１日に小さい茶碗に２杯もありませんでした。スープは大根の葉が入った塩水です。囚人たちはあまりにもお腹がすいて、ごはん一粒のために喧嘩が起こったほどです。

そのような中でも真のお父様は、「ために生きる」ことを実践されました。

最初の2、3週間、少ない食事の半分だけを自分が食べて、残りの半分を他の囚人に分け与えました。真のお父様は、聖書の中の「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」（マタイ4・4）というみ言を実践され、与えた半分のご飯を嬉しそうに食べる人の姿を見て、喜ばれました。真のお父様は、苦しい時にこそ、人を愛されたのです。

この「興南」での生活は、2年8か月も続きました。

最後は、アメリカやイギリスなど世界の16か国の国連軍が爆撃することによって、興南から解放されました。

真のお父様は、神様の願いを果たす道を行くことを決意してから、あらゆる試練を通過されました。でも、その度にその様な苦労の道を行かせなければならない親なる神様のことを思い、慰めていかれました。

私たちも真のお父様のように、苦労や試練があったとしても、悲しみの神様を慰めていくことのできる私たちになれるように頑張りましょう！